

# 平成 28 年度 財務諸表の概要

横須賀市は、平成 10 年度決算から企業会計（民間企業が採用する複式簿記の手法）の考え方を取り入れた財務諸表を作成しています。

平成 28 年度決算からは「統一的な基準」により、貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書の 4 種類の財務諸表を作成しています。

市の予算決算は、市民の皆さんにご負担いただいた税金などのつかい方について計画と結果をお知らせするものですが、その中で生まれる資産（財産）や負債（借金）を加えて、どのような財政状況かを示すものが財務諸表になります。

一般会計等、その他の特別会計を含めた「横須賀市全体会計」、そして外郭団体なども含めた「連結会計」と、対象会計別に 3 種類の財務諸表がありますが、ここでは一般会計等版を掲載しています。

## 貸借対照表

「貸借対照表」は、公共施設や学校、現金などの市の資産と、それらを取得するために使われた市税や市債（借金）などの財源を示しています。

資産の合計と（負債＋純資産）の合計が同じ額でバランスが取れることから「バランスシート」とも呼ばれています。

### 資 産 6,587 億円

市が所有する財産の金額です

#### 【内訳】

|           |          |
|-----------|----------|
| 有形・無形固定資産 | 6,095 億円 |
| 投資その他の資産  | 332 億円   |
| 流動資産      | 160 億円   |
| うち歳計現金    | 38 億円    |

### 負 債 1,987 億円

左の資産を形成するために市債（借金）などにより将来の世代が負担する金額です。

### 純資産 4,600 億円

左の資産を形成するために今までの世代が負担した支払済みの金額です。

計 6,587 億円

計 6,587 億円

## 資金収支計算書

市の 1 年間の現金収入と支出が、どのような原因で増減しているかを表します。

経常収支から公共資産整備収支や投資・財務的収支に市の一般財源を充当し、借金の返済などに使っていることがわかります。

H27 年度末残高 39 億円

当期収支 Δ1 億円

#### 【内訳】

|        |        |
|--------|--------|
| 業務活動収支 | Δ36 億円 |
| 投資活動収支 | 48 億円  |
| 財務活動収支 | Δ13 億円 |

H28 年度末残高 38 億円

## 純資産変動計算書

市の純資産が、平成 28 年度中にどのように増減したかを表します。

H27 年度末残高 4,711 億円

当期変動高 Δ111 億円

#### 【内訳】

|          |            |
|----------|------------|
| 純行政コスト   | Δ 1,263 億円 |
| 財源調達分    | 1,136 億円   |
| 資産評価替えなど | 16 億円      |

H28 年度末残高 4,600 億円

## 行政コスト計算書

市の行政活動は、公共施設の整備のように資産形成につながらない保健医療や福祉、ごみの収集といったサービスが数多くあります。

行政コスト計算書は、このような行政サービスのコストと使用料などの受益者負担金を対比させ、サービスの提供にどのくらいの税金（国県補助金等を含む）を投入しているのか表しています。

経常行政コスト① 1,350 億円

#### 【内訳】

|              |        |
|--------------|--------|
| 人にかかるコスト     | 284 億円 |
| 職員給与など       |        |
| 物にかかるコスト     | 429 億円 |
| 物品購入費、修繕費など  |        |
| 移転支出的コスト     | 612 億円 |
| 児童手当などの給付費など |        |
| その他のコスト      | 25 億円  |
| 市債の利子など      |        |

経常収益② 98 億円

施設使用料など行政サービスの受益者負担金です。

臨時的経費③ Δ11 億円

資産除売却などによる損益。

純行政コスト①-②-③ 1,263 億円

経常行政コストから受益者負担金を差し引いた額です。

この額が税金で賄われていることを表しています。